



菅波 茂

ミャンマー中部の乾燥地帯が75年ぶりの豪雨に襲われた。ミャンマーの雨期は激しい。バリバリとたたきつけるような豪雨であり、数分先も見えない。所によつては2分もの浸水で、既に30人以上の死者が出た。多数の家屋が流され、被害はますます増えている。

ミャンマー中部の都市、メグティラー市にあるAMDAが支援している子ども病院は被害を免れた。AMDAは現地日本人スタッフを中心に救援活動を開始。とりあえず15000人の

ミャンマーの豪雨

子どもたちに衣類を提供した。後は食糧と医療を中心とした活動をミャンマー政府と協力して実施していく予定である。

2年前にミャンマ

ーの保健大臣が拙宅に宿泊された。夜更けまで話し合った。

真摯な仏教徒である彼に私は言った。「あなたにはミャンマーに生まれて、軍人になって今、保健大臣としてここにいます。私は日本に生まれて、

医師になって今、A

MDAの代表としてここにいます。あなたは仏教徒として縁を信じているのか」

彼は言った。「当然だ」私は

尋ねた。「なぜ私たちはここにいるのだろうか。一緒にミャンマーの人たちの健康を推進するためだろうか」と。「私もそう思う」と彼は答えた。以後彼は積極的にAMDAの活動を支援してきている。

アジアの自然災害は洪水と地震である。メディアに報道されない災害はたくさんある。災害は必ず被災者を発生させるが、被災者にとって最もつらいことは、世の中から無視されることだ。AMDAは国際救援ネットワークをこれからも拡充する。「AMDAは必ず来る」——これは私の究極の悲願である。

(アジア医師連絡協議会代表、題字は筆者)